



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Artistic Director: Akiko Suwanai

国際音楽祭NIPPON 2026

芸術監督: 諏訪内晶子



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

人のいるところには
夢がある。



JAPAN ARTS

フォーレ室内楽全曲マラソンコンサート

3月1日(日) 横浜みなとみらいホール 大ホール



International Music Festival
NIPPON 2026

国際音楽祭NIPPON 2026に寄せて

音楽は、言語を超えて人の心に触れ、時代や文化を超越して響きあう芸術です。

国際音楽祭NIPPONは、2012年の創設以来、音楽を通して人と人を結び、過去と未来を紡いでいくことを大切に、歩んでまいりました。

第9回となる「国際音楽祭NIPPON 2026」は、横浜、東海市、名古屋、久慈、石巻の5つの地で開催いたします。今回も、国内外の多世代にわたる優れた演奏家たちが、魅力あふれる多彩なプログラムを奏でます。

また、これまで継続してきた教育プログラムの一つ、マスタークラスを受講された若い音楽家たちが、再び演奏家としてこの音楽祭に参加してくださることも、この音楽祭の特徴の一つとなりつつあります。

音が響きあう瞬間、その思いが未来へと受け継がれていく時間を、皆様と共に過ごせることを楽しみにしております。この度も変わらずご支援を賜っております企業の皆様、関係の皆様、心より感謝を申し上げます。

尊い芸術への敬意と、世界の平和を願う想いととも。

国際音楽祭NIPPON 2026
芸術監督
諏訪内 晶子

On the Occasion of the International Music Festival NIPPON 2026

Music is an art form that transcends language and touches hearts, resonating with people in all times and cultures.

Since its beginning in 2012, the International Music Festival NIPPON has placed importance on bringing people together and interweaving past and future through music as it continues its journey.

The International Music Festival NIPPON 2026, the festival's ninth edition, will be held in five locations — Yokohama, Tokai City, Nagoya, Kuji and Ishinomaki. Once again, diverse and fascinating programs will be performed by outstanding musicians spanning several generations, from both inside and outside Japan.

A special aspect of this music festival is that young musicians who previously participated as students in master classes, one of the education programs that has continued up to the present, are now returning to take part in the festival as musicians.

Moments when sounds resonate. I look forward to sharing with all of you a time in which this inspiration is passed on toward the future. I would like to express once again my heartfelt thanks to the corporations that have provided continuous support, and to everyone who has made this festival possible.

With deep respect for the treasure of art, and with the wish for world peace,

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2026

3.1(日) 神奈川 横浜みなとみらいホール 大ホール

March 1 Sun. Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall [Kanagawa]

[第1部] 11:00開演

■ヴァイオリン・ソナタ第1番 イ長調 Op.13 [シュミット/北村]
Violin Sonata No.1 in A major, Op.13 [Schmid/Kitamura]
第1楽章:アレグロ・モルト 第2楽章:アンダンテ 第3楽章:アレグロ・ヴィーヴォ 第4楽章:アレグロ・クワジ・プレスト
1st Mov.: Allegro molto 2nd Mov.: Andante 3rd Mov.: Allegro vivo 4th Mov.: Allegro quasi presto

■ヴァイオリン・ソナタ第2番 ホ短調 Op.108 [金川/阪田]
Violin Sonata No.2 in E minor, Op.108 [Kanagawa/Sakata]
第1楽章:アレグロ・ノン・トロッポ 第2楽章:アンダンテ 第3楽章:アレグロ・ノン・トロッポ
1st Mov.: Allegro non troppo 2nd Mov.: Andante 3rd Mov.: Allegro non troppo

■初見視奏曲 Morceau de lecture [金川/阪田] [Kanagawa/Sakata]

■コンクール用小品 Morceau de Concours [石井/阪田] [Ishii/Sakata]

■幻想曲 Op.79 Fantaisie, Op.79

■ピアノ三重奏曲 ニ短調 Op.120 [葵トリオ]
Piano Trio in D minor, Op.120 [Aoi Trio]
第1楽章:アレグロ・マ・ノン・トロッポ 第2楽章:アンダンティーノ 第3楽章:アレグロ・ヴィーヴォ
1st Mov.: Allegro ma non troppo 2nd Mov.: Andantino 3rd Mov.: Allegro vivo

[第2部] 14:00開演

■ピアノ四重奏曲第1番 ハ短調 Op.15 [シュミット/赤坂/佐藤/三浦]
Piano Quartet No.1 in C minor, Op.15 [Schmid/Akasaka/Sato/Miura]
第1楽章:アレグロ・モルト・モデラート 第2楽章:アレグロ・ヴィーヴォ 第3楽章:アダージョ 第4楽章:アレグロ・モルト
1st Mov.: Allegro molto moderato 2nd Mov.: Allegro vivo 3rd Mov.: Adagio 4th Mov.: Allegro molto

■蝶々 Op.77 Papillon, Op.77 [マインツ/三浦] [Maintz/Miura]

■エレジー Op.24 Élégie, Op.24

■シシリエンヌ Op.78 Sicilienne, Op.78

■ピアノ四重奏曲第2番 ト短調 Op.45 [諏訪内/鈴木/マインツ/ソン]
Piano Quartet No.2 in G minor, Op.45 [Suwanai/Suzuki/Maintz/Sohn]
第1楽章:アレグロ・モルト・モデラート 第2楽章:アレグロ・モルト 第3楽章:アダージョ・ノン・トロッポ 第4楽章:アレグロ・モルト
1st Mov.: Allegro molto moderato 2nd Mov.: Allegro molto 3rd Mov.: Adagio non troppo 4th Mov.: Allegro molto

■出演者 ヴァイオリン:諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット、金川真弓、米元響子
Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid, Mayumi Kanagawa, Kyoko Yonemoto
ヴィオラ:赤坂智子、鈴木康浩 チェロ:イェンス＝ペーター・マインツ、上野通明、佐藤晴真、辻本 玲
Viola: Tomoko Akasaka, Yasuhiro Suzuki Cello: Jens-Peter Maintz, Michiaki Ueno, Haruma Sato, Rei Tsujimoto
フルート:石井希衣 ピアノ:ソン・ミンソ、秋元孝介、北村朋幹、阪田知樹、三浦謙司
Flute: Kie Ishii Piano: Minsoo Sohn, Kosuke Akimoto, Tomoki Kitamura, Tomoki Sakata, Kenji Miura
葵トリオ<秋元孝介(ピアノ)・小川響子(ヴァイオリン)・伊東 裕(チェロ)>
Aoi Trio [Kosuke Akimoto, Piano / Kyoko Ogawa, Violin / Yu Ito, Cello]
レグルス・クアルテット<吉江美桜(ヴァイオリン)・東條太河(ヴァイオリン)・山本 周(ヴィオラ)・矢部優典(チェロ)>
Regulus Quartet [Mio Yoshie, Violin / Taiga Tojo, Violin / Shu Yamamoto, Viola / Yusuke Yabe, Cello]

[第3部] 16:00開演

■チェロ・ソナタ第1番 ニ短調 Op.109 [辻本/阪田]
Cello Sonata No.1 in D minor, Op.109 [Tsujimoto/Sakata]
第1楽章:アレグロ 第2楽章:アンダンテ 第3楽章:アレグロ・コモード
1st Mov.: Allegro 2nd Mov.: Andante 3rd Mov.: Allegro commodo

■チェロ・ソナタ第2番 ト短調 Op.117 [上野/北村]
Cello Sonata No.2 in G minor, Op.117 [Ueno/Kitamura]
第1楽章:アレグロ 第2楽章:アンダンテ 第3楽章:アレグロ・ヴィーヴォ
1st Mov.: Allegro 2nd Mov.: Andante 3rd Mov.: Allegro vivo

■子守歌 Op.16 Berceuse, Op.16 [米元/三浦] [Yonemoto/Miura]

■ロマンス 変ロ長調 Op.28 Romance in B-flat major, Op.28

■アンダンテ 変ロ長調 Op.75 Andante in B-flat major, Op.75

■弦楽四重奏曲 ホ短調 Op.121 [レグルス・クアルテット]
String Quartet in E minor, Op.121 [Regulus Quartet]
第1楽章:アレグロ・モデラート 第2楽章:アンダンテ 第3楽章:アレグロ
1st Mov.: Allegro moderato 2nd Mov.: Andante 3rd Mov.: Allegro

[第4部] 19:00開演

■ピアノ五重奏曲第1番 ニ短調 Op.89 [金川/米元/鈴木/上野/北村]
Piano Quintet No.1 in D minor, Op.89 [Kanagawa/Yonemoto/Suzuki/Ueno/Kitamura]
第1楽章:モルト・モデラート 第2楽章:アダージョ 第3楽章:アレグレット・モデラート
1st Mov.: Molto moderato 2nd Mov.: Adagio 3rd Mov.: Allegretto moderato

■ロマンス イ長調 Op.69 Romance in A major, Op.69 [佐藤/秋元] [Sato/Akimoto]

■セレナード Op.98 Serenade, Op.98

■夢のあとに Op.7-1 Après un rêve, Op.7-1

■ピアノ五重奏曲第2番 ハ短調 Op.115 [シュミット/諏訪内/赤坂/マインツ/ソン]
Piano Quintet No.2 in C minor, Op.115 [Schmid/Suwanai/Akasaka/Maintz/Sohn]
第1楽章:アレグロ・モデラート 第2楽章:アレグロ・ヴィーヴォ 第3楽章:アンダンテ・モデラート 第4楽章:アレグロ・モルト
1st Mov.: Allegro moderato 2nd Mov.: Allegro vivo 3rd Mov.: Andante moderato 4th Mov.: Allegro molto

主催:ジャパン・アーツ/日本経済新聞社
共催:横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)
後援:ドイツ連邦共和国大使館/オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム東京
駐日韓国大使館 韓国文化院
協力:ユニバーサル ミュージック/神奈川芸術協会

特別協賛:  豊田自動織機  TOYOTA  豊田通商  AISIN



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON



《レクイエム》で有名なガブリエル・フォーレ(1845–1924)だが、本領は、歌曲と、ピアノ曲と、室内楽曲にこそある。うち室内楽は、彼が多楽章形式の器楽曲に取り組んだほとんど唯一のジャンルであり、かつ傑作ぞろい。第二帝政期のオペラ好みを引きずっていたフランスに、この分野の豊かな可能性を思い知らせた点でも重要である。

きっかけとして、「国民音楽協会」の設立があるだろう。1871年、対独戦争に敗れたフランスにあって、若い世代の「真面目な作品」を世に問うべくサン＝サーンスらが始めた会で、フォーレの室内楽曲第1号、ヴァイオリン・ソナタ第1番は、この機運を背景に生まれた。これとピアノ四重奏曲第1番とを、創作第1期に属すとみなせば、同第2番とピアノ五重奏曲第1番が第2期(1885–)、残る6つの多楽章作品が第3期(1916–)の作となる。本日は、これらに単一楽章の小品が加わり、フォーレの全室内楽曲を聴けるまたとない機会である。

■ 第1部 ■

■ ヴァイオリン・ソナタ第1番 イ長調 Op.13

アレグロ・モルト／アンダンテ／アレグロ・ヴィーヴォ／アレグロ・クワジ・プレスト

フォーレは、1845年、ピレネー山脈に近いアリエージュ県のパミエの生まれ。9歳でパリの古典宗教音楽学校、ニデルマイエール学校に入り、そこを卒業すると、主にオルガニストとして生活してゆくことになる。レンヌの教会、パリのサン＝シュルピス教会、マドレーヌ寺院、など。その間の重要な出来事として、フォーレも従軍した普仏戦争(1870–71)がある。上記のとおり、本作は、その戦争後のフランス音楽界の動向を背景に生まれた。1875年、30歳の夏に着手、ベルギーのヴァイオリニスト、ユベール・レオナルから助言を受けながら、翌年に完成した。

第1楽章は、息長くのびる旋律がすがすがしいソナタ形式。バルカロール(舟歌)風の**第2楽章**は、この10年後のセザール・フランクのソナタに影響しているだろう。**第3楽章**は軽やかなピアノとヴァイオリンのスピッカートが対話するスケルツォ。**第4楽章**は Rondino ソナタ形式。副主題の嬰へ短調の部は、どこかブラームス風だ。

■ ヴァイオリン・ソナタ第2番 ホ短調 Op.108

アレグロ・ノン・トッポ／アンダンテ／アレグロ・ノン・トッポ

作曲家71歳の時、1916年から17年かけてエヴィアンで書かれた。第3期の室内楽曲の嚆矢となった本作は、同じヴァイオリン・ソナタでも第1番とは対照的に、調が頻繁にゆらぐなど、その美はかなり渋い。このときまでに、パリ国立音楽院の院長就任(1905年)、新しい音楽を擁護する「独立音楽協会」の会長就任(1909年)、聴覚障害の悪化、など、身边にも大きな変化があった。加えて第一次世界大戦(1914–18)の勃発である。音楽学者のJ.–M. ネクトゥーなどは、それへの「怒り」を本作に聴き取っている。

ソナタ形式の**第1楽章**は、ホ短調のいかつい第1主題とト長調の伸びやかな第2主題が対照的だが、突き上げのようなシンクペーションが全体を統べている。**第2楽章**は、破棄されたニ短調交響曲から採った古代旋法に基づく主題Aと、晦渋ながら高雅な香りをたたえた副主題Bとが、A・B・A・B・A+Bと展開する。**終楽章**は3つの主題が次々に変容してゆくが、終盤で第1楽章の両主題が混じる。

■ 初見視奏曲

音楽院の院長に就く以前、フォーレは1896年から同院の作曲科教授を務めていた(生徒にラヴェル、ケクランなど)。本作はその職にあって、1903年にヴァイオリン科の試験用に書いたもの。技巧よりもむしろ歌心が試される、わずかに25小節の小品。

■ コンクール用小品

■ 幻想曲 Op.79

2曲とも1898年の作で、やはり音楽院内のフルート・コンクールのために同院フルート科教授のポール・タファネルから頼まれて書いた。

《コンクール用小品》のほうは19小節のごく短いものだが、手稿譜の所有者A.H.Briefが編んだ33小節に拡大した版(1977年)がよく演奏される。《幻想曲》は、アンダンティーノとアレグロの部から成る。タファネルの手が入っており、フォーレのオリジナル譜は現存しない。

■ ピアノ三重奏曲 ニ短調 Op.120

アレグロ・マ・ノン・トロッポ／アンダンティーノ／アレグロ・ヴィーヴォ

悪くなってゆく聴覚。さらには動脈硬化。死の4年前、1920年に、フォーレは音楽院の院長職を辞すことになる。経済的にも苦境にあり、本作は、そんななか楽譜出版のデュラン社が書くよう勧めたものである。最初は書きあぐねていた本作も、1923年の春には完成。初演は同年5月。6月にはパリでコルトー、ティボー、カザルス の3人によって再演され、ベルギーのエリザベート王妃(Op.108の被献呈者)がこれに感激し、フォーレに熱烈な手紙を送っている。

ヴァイオリン・パートが、当初クラリネットでも演奏可と考えられていたためだろうか、全体に、弦楽器の重音は慎重に避けられている。4分の3拍子の**第1楽章**。主題はニ短調で、チェロが息長く弾く。第2主題はへ長調でピアノが提示。展開部が凝っているが、全体は短い。**第2楽章**は、対等な関係に置かれたヴァイオリンとチェロ(ユニゾンも多い)がピアノと共に徐々に高揚を築いてゆく。エネルギーに始まる**第3楽章**はスケルツォ風。

■ 第2部 ■

■ ピアノ四重奏曲第1番 ハ短調 Op.15

アレグロ・モルト・モデラート／アレグロ・ヴィーヴォ／アダージョ／アレグロ・モルト

ヴァイオリン・ソナタ第1番と同様、創作第1期の作。もっとも、フォーレはこれを1879年に仕上げながらも第4楽章が気に入らず現在の形になったのは1883年だった。この間、1877年には、オルガニストを務めたマドレーヌ寺院で礼拝堂楽長に就任。また婚約相手との関係が破たんしている。相手の母で著名な声楽家、ポーリーヌ・ヴィアルドのサロンにフォーレは出入りし、ジョルジュ・サンドやツルゲーネフらと接していた。なお、婚姻関係は、1883年にマリー・フレミエと結んでいる。

第1楽章、弦楽がユニゾンで示す主題のリズムは、フランスの古いクーラント風。**第2楽章**は、フォーレが書いたスケルツォの中でも造りがA・B・A・C・Aと大規模。Cがトリオ部で、弦楽器が弱音器つきで現れる。**第3楽章**は、悲痛なハ短調の部、匂やかな変イ長調の部ときて、またハ短調に戻るアダージョ。ギャロップ風の**第4楽章**を駆動するのは、ピアノの3連符である。

■ 蝶々 Op.77

成功作《エレジー》のいわば副産物。楽譜出版のアメル社が、同じチェロとピアノの編成でより技巧的な作品を、と求めてきたのだ。作曲はおそらく1884年。だが出版はようやく1898年で、フォーレがたんに「チェロのための曲」としていたものをアメル社が《蝶々》と名づけた。作曲家は「蝶でも蠅でも、好きになさい!」と怒ったとか。

Program Notes

■エレジー Op.24

室内楽曲第1号となったヴァイオリン・ソナタ第1番の成功を受けて、フォーレは1880年、チェロ・ソナタを構想する。そこで最初に書いた緩徐楽章が、本作の基となった。1883年刊。ソナタ全体は、結局できなかったのだ。悲痛な表情のハ短調で始まるが、中間部は変イ長調でおやかに。

■シシリエンヌ Op.78

「シチリア島のうた」を意味するシシリエンヌは、8分の6拍子もしくは8分の12拍子の牧歌的な舞曲。チェロとピアノのための本作は6拍子をとる。元はモリエールの戯曲『町人貴族』のために構想した音楽だが、これは依頼劇場が封鎖されたため実現しなかった。出版は1898年。同時期に《ペレアスとメリザンド》の劇音楽にもシャルル・ケクランのオーケストレーションで組み込まれた。

■ピアノ四重奏曲第2番 ト短調 Op.45

アレグロ・モルト・モデラート／アレグロ・モルト／アダージョ・ノン・トロポ／アレグロ・モルト

完成は1886年。有名な《レクイエム》(初稿1887年)も書かれた創作第2期の、始まりに位置する作である。セザール・フランクの「循環形式」とはまた異なるが、主題の楽章横断的な活用がみられる。この時期はまた、ドイツでの《ニーベルングの指環》鑑賞(1879年)に始まるワーグナー体験を深めていった頃にあたる。本作はワーグナーとも縁深いハンス・フォン・ビューローに献じられている。

第1楽章の第1主題は、弦楽器が一丸となって情熱的に奏でる。ヴァイオリンが歌い出す第2主題は変ロ長調で、いかにも優しい表情だが、第1主題から派生したものの。スケルツォの第2楽章でも、第1楽章・第1主題の断片が中間部に現れる。第3楽章は、静けさと物憂い気分が香る美しいアダージョ。幼年期に聞いた夕暮れ時のかすかな鐘の音が反映しているという。第4楽章で暗く情熱的な調子が戻るが、こちらはどこかダンサブル。ハ長調に明るむところは第1楽章・第2主題を変形したもの。

■第3部■

■チェロ・ソナタ第1番 ニ短調 Op.109

アレグロ／アンダンテ／アレグロ・コモード

フォーレのチェロ作品といえば、小品のほうが有名だろう。そのほとんどは創作第1期、第2期の作。対して2曲のソナタは第3期のもので、本作はヴァイオリン・ソナタ第2番に続き1917年に書かれた。J.-M.ネクトゥーが言うように、ここに第一次世界大戦に対する作曲家の怒りを聴き取るべきだろうか？ 大戦勃発の前年にフォーレのオペラ《ペネロープ》(1907-13)のバリ初演を指揮したチェリスト、ルイ・アッセルマンに献じられている。ちなみに、ルイの妹でピアニストのマルグリット・アッセルマンとは、フォーレは長年親密な関係にあった。

4分の3拍子を惑わすリズムで始まる第1楽章は、どこか威嚇的。だがジャズ風味をまじえて、颯爽としてもいる。葬送風の付点リズムで始まる第2楽章には、どこか日本民謡のような雰囲気もあるだろう。のびやかな歌で始まる第3楽章は、第2主題中のオクターヴ跳躍下行がどこか艶っぽい。底流ではピアノの16分音符がとめどなく鳴っている。

■チェロ・ソナタ第2番 ト短調 Op.117

アレグロ／アンダンテ／アレグロ・ヴィーヴォ

チェロ・ソナタ第1番の4年後、1921年の作。きっかけは、この年の5月に執り行われたナポレオン1世没後100年

記念式典にある。フランス政府から委嘱され、フォーレはこの式典のために、気が進まぬながらも《葬送の歌》を書いた。吹奏楽に編むのも憲兵隊の音楽隊長に任せしたが、その後、放置しておくのを惜しんでチェロとピアノ用に編曲。これを緩徐楽章として、両端楽章を新たに加え、そうしてできたのが本作だった。

ピアノが裏拍で「あと打ち伴奏」を続けながら、独奏楽器とカノンをなす。このフォーレに典型的な書法が、第1楽章で存分に展開する。あと打ちが消え長調でピアノだけになるところが第2主題。緩徐な第2楽章は、どこか《エレジー Op.24》に似ているが、転調はより劇的だ。終楽章は、晩期フォーレらしく、スケルツォ風の音楽。長調の第2主題は4声体で、まずピアノが出す。休符で何度もストップモーションがかかるシーンは、第3主題ともみなせそう。

■子守歌 Op.16

ピアノ四重奏曲第1番が1880年2月に決定稿以前の形で初演された際、あわせて公表された。弱音器付きのヴァイオリン(チェロでも可)がニ長調で素朴なメロディを歌う。楽譜出版のアメル社が、以後、長きにわたってフォーレ作品を扱うきっかけとなった小品。

■ロマンス 変ロ長調 Op.28

これもピアノ四重奏曲第1番の頃のヴァイオリン小品で、1877年の夏、南仏ビレネーのコテレで書かれた。フォーレによれば、かの地の「山の尾根」が反映しているという。舟歌風のアンダンティーノが、ト短調の激した中間部をはさむ。

■アンダンテ 変ロ長調 Op.75

フォーレには、第1楽章だけが現存する未完のヴァイオリン協奏曲ニ短調Op.14(1878-79)がある。1897年作の本作は、その協奏曲の破棄された第2楽章が基になっているという。短調に翳る中間部があり、これが曲尾にも、ふと再帰する。

■弦楽四重奏曲 ホ短調 Op.121

アレグロ・モデラート／アンダンテ／アレグロ

「フォーレの楽器」といえばピアノ。室内楽曲でも、ピアノを欠いた大作となると、本作1つしかない。そしてこれが生涯最後の作となった。1923年から断続的に書かれ、24年9月に完成。刊行すべきか否かは友人らに判断をゆだねると言い残し、同年11月4日、79歳で息を引き取った。「ベートーヴェンのジャンル」として弦楽四重奏曲をずっと畏れていたフォーレ。それを聴覚のひどく歪んだ身で書いたのである。

第1楽章は、いかにもフォーレらしくヴァイオリンのソロで始まる。第1主題はこれと、直後に応答する教会旋法で下がって上がる第1ヴァイオリンの旋律。第2主題はト長調で逆に上がって下がる。後二者はヴァイオリン協奏曲Op.14(未完)の第1楽章から採られている。調性の定かならぬ第2楽章は、どこか「白い」印象がある。3つある主題のうち2つが、やはりヴァイオリンで提示される。第3楽章は、フォーレ曰く「軽快で楽しい音調」。ピッツィカートに乗った動的な旋律が、次々に楽器を変えて現れる。

■第4部■

■ピアノ五重奏曲第1番 ニ短調 Op.89

モルト・モデラート／アダージョ／アレグレット・モデラート

創作第2期から第3期へ向かう頃の作品。1891年にスケッチを開始、その後中断し、1903年から06年にかけて

Program Notes

完成させた。この間はフォーレにとって多難の時であった。まず、1903年に深刻な聴覚障害が明らかになった。それは悪化の一途をたどり、低音域が3度高く、高音域は3度低く聞こえたという。後年、彼の書法は中音域へ集中する傾向をみせるが、その事とこの耳疾とを関連付ける者は多い。1905年にはパリ国立音楽院の院長となって、学内改革を断行、周囲から反発も食らった。

本作は、より簡素により狭くなってゆく後年の作品に比べると、驚くほどメロディアス。ピアノ・パートの甘美さも際立っている。第1楽章のそれなどハーブのアルペジオのよう。第2楽章は、8分の12拍子の主題と4分の4拍子の主題の交代・交差が美しい。第3楽章のいかにも上機嫌なニ長調主題は、ベートーヴェンの「歓喜の歌」に感化されたものか?と作曲者も自問したらしいが、さてどうだろう。

ロマンス イ長調 Op.69

元はチェロとオルガンのための曲で、1894年にチェロとピアノ用に編曲された。「アンダンテ・クワジ・アレグレット」が、1895年の出版時に《ロマンス》と題されたのは、おそらくはアメル社による。オクターヴ順次上行をサッと繰り返す動機が、冒頭、中ほど、結尾に現れ、アクセントを成す。

セレナード Op.98

1908年にパブロ・カザルスのために作曲されたチェロとピアノのための小品。マンドリンを模したピアノに乗って歌うチェロの旋律は、どこかフォーレ自身の歌曲《月の光 Op.46-2》を思わせる。カザルス曰く、「弾くたびに新しく思えます。それほど素晴らしい」。

夢のあとに Op.7-1

原曲はフォーレの歌曲《夢のあとに》(1877年)。そのあまりに有名なチェロ編曲版は、本日ただひとつ第三者によるもので、パブロ・カザルスによる。ロマン・リュシーヌの詩は、夢に見た恋人の幻影と、そこからの目覚めを詠む。「戻り来たれ、おお、神秘的な夜よ!」

ピアノ五重奏曲第2番 ハ短調 Op.115

アレグロ・モデラート／アレグロ・ヴィーヴォ／アンダンテ・モデラート／アレグロ・モルト

晩期フォーレの、いや彼の全室内楽曲中の、最高傑作。音響、詩情ともに、まことに気宇壮大。老齡、病苦、経済的困窮にあったとは信じがたい。モンテカルロ、ニースほかで、1919年から21年にかけてゆっくりと書き継がれた。

第1楽章は、ソとドを繰り返すピアノの波に乗って、ヴィオラがソノドノソと弾き始める。たゆたう調。たゆたう拍子。4分3拍子が明確になると、弦楽がコラール風の主題を弾き、それを和らげるかのように、こんどはピアノが舞曲風ふるまう。以上3つの主題が交響的に展開する。第2楽章に快速スケルツォを置くのはOp.45以来、35年ぶり。半音階的に身もたえする第3楽章を、ブルックナーの緩徐楽章になぞらえる者もあるが、香るような物憂さはやはりフォーレ。2分の3拍子を擬態して始まる第4楽章は、歓喜の音楽だ。

初演時(1921年5月21日)、最後の和音が鳴り終わるや聴衆は立ち上がり歓声をあげたという。だが、フォーレにはそれが聞こえないのだった。

Profile



Akiko
Suwanai

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON 2026 芸術監督／ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。2012年、2015年エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門及び2019年チャイコフスキー国際コンクール審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。2024年6月に最新アルバム「ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ集」をリリース。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr.Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグアルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin / Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2026)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label.

Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesu violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.



Benjamin Schmid

ベンジャミン・シュミット (ヴァイオリン)

1992年カール・フレッシュ・コンクール優勝。小澤征爾指揮ウィーン・フィルをはじめ、ロンドン・フィル、サンクトペテルブルク・フィル、コンセルトヘボウ管など著名オーケストラと共演。60枚以上のCDをリリース、ドイツ・レコード賞ほか多数受賞。ジャズ即興でも高い評価を得ている。ザルツブルク・モーツァルテウム大学教授。ミュンヘン国際をはじめとする国際コンクールの審査員を務める。

Benjamin Schmid (Violin)

Winner of the Carl Flesch Competition in 1992. Benjamin Schmid has performed with renowned orchestras such as the Vienna Philharmonic Orchestra conducted by Seiji Ozawa, the London Philharmonic Orchestra, Saint Petersburg Philharmonic Orchestra, and Concertgebouw Orchestra. He has released over 60 CDs and received numerous awards including the German Record Critics' Award. He is also highly acclaimed for his jazz improvisations. Schmid is a professor at the Mozarteum University Salzburg. He has served as a jury member for international competitions including the ARD International Music Competition Munich.



Mayumi Kanagawa

金川 真弓 (ヴァイオリン)

2024年ジョルジュ・エネスク優勝をはじめ、チャイコフスキーやロン＝ティボー国際コンクールなどに上位入賞。国内外でソリスト、室内楽奏者、そして指導者として活躍。ハンス・アイスラー音楽大学でコリヤ・ブラッハーに師事。現在はプレーメン芸術大学で教えながらベルリンを拠点に演奏活動を行う。使用楽器は、笹川音楽財団(旧:日本音楽財団)貸与のストラディヴァリウス《ウィルヘルミ》(1725年製)。

Mayumi Kanagawa (Violin)

Gold medalist of the 2024 George Enescu competition as well as prizewinner of the Tchaikovsky and Long-Thibaud Crespin competitions, Mayumi is an active soloist, chamber musician and pedagogue both nationally and internationally. She studied under Kolja Blacher at Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin, and currently performs on the "Wilhelm" Antonio Stradivarius violin from 1725, on generous loan from the Sasakawa (formerly Nippon) Music Foundation.



Kyoko Yonemoto

米元 響子 (ヴァイオリン)

1997年パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール(イタリア)において史上最年少13歳で入賞後、モスクワ・パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール優勝、ロン＝ティボー国際コンクール第3位など入賞多数。これまで国内外の主要オーケストラと共演を重ねるほか、室内楽の分野でも高い評価を受けている。現在、マーストリヒト音楽院教授。CD『イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲』は文化庁芸術祭優秀賞受賞、「レコード芸術」特選盤に選出された。

Kyoko Yonemoto (Violin)

At the age of 13, Kyoko Yonemoto became the youngest-ever prizewinner at the 1997 Paganini Competition in Italy. She later received numerous prizes, including first prize at the Paganini Moscow International Competition, third prize at the Long-Thibaud International Competition, and many other awards. In addition to appearing with major orchestras inside and outside Japan, Yonemoto has earned high praise as a chamber musician. She is currently a professor at the Maastricht Conservatorium in the Netherlands. Her CD Ysaÿe: Complete Sonatas for Violin received the Excellence Award a recipient of the Agency for Cultural Affairs.



Tomoko Akasaka

赤坂 智子 (ヴィオラ)

ジュネーヴ音楽院にて今井信子女史に師事の傍ら同校助教授を経た後、ライブツィヒ、デュッセルドルフ音楽大学にて後進の指導に当たり、現在ミュンスター音楽大学教授。スイス・ルツェルン、ヴェルビエ音楽祭、オーストリア・ザルツブルク音楽祭等に常時招かれ、コンサートではベルリン・フィルハーモニーホール、ウィーン・ムジークフェラインなどのホールにてリサイタルに出演。第53回ミュンヘン国際音楽コンクール第3位受賞。ペンデレトン財団よりミュージシャン・オブ・ザ・イヤー授賞。ジュネーヴ国際コンクールをはじめとする国際コンクールの審査員を務める。

Tomoko Akasaka (Viola)

The 3rd prize at the 53th Munich International music competition. She entered the Diploma course of the Toho Conservatory which she completed. Tomoko Akasaka studied with Nobuko Imai at the The Genève Conservatory of Music, where she then worked alongside her professor as an assistant. After serving as a visiting professor at Robert Schumann University of Music and Leipzig University of Music, she is currently a professor at Münster University of Music.



Yasuhiro Suzuki

鈴木 康浩 (ヴィオラ)

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。第7回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。サイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival.



Jens-Peter Maintz

イエンス＝ペーター・マインツ (チェロ)

1994年ミュンヘン国際音楽コンクールにおいてチェロ部門17年ぶりの優勝者となる。2006年よりクラウディオ・アバドの招聘をきっかけにルツェルン祝祭管弦楽団ソロ・チェリストを務めている。これまでにアシュケナージ、プロムシュテットらと共演。2004年よりベルリン芸術大学教授。使用楽器は、デヴィッド・テクラー [David Tecchler] (1741年) 製《エクス＝フォアマン》。

Jens-Peter Maintz (Cello)

Jens-Peter Maintz enjoys an international reputation as a soloist, chamber musician, and teacher. He studied with David Geringas and won First Prize at the 1994 ARD International Music Competition. He has appeared with orchestras including the Berlin Radio Symphony, Stuttgart Radio Symphony, Den Haag Residentie Orkest, and Tokyo Symphony Orchestra, collaborating with conductors such as Ashkenazy, Blomstedt, Janowski, and Welser-Möst. Since 2006, he has been principal cello of the Lucerne Festival Orchestra. He is Professor in Berlin (Udk) and Madrid (Reina Sofia) and plays the "Ex-Feuermann" cello by David Tecchler (1741).



Michiaki Ueno

上野 通明 (チェロ)

2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門日本人初の優勝。その他多数の国際コンクールで優勝、国際舞台で次々と活躍し話題となる。日本製鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、ベートーヴェン・リング賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞など受賞歴多数。楽器は、1730年製A.Stradivarius《Feuermann》(笹川音楽財団)、弓はF.Tourte(住野泰士コレクション)をそれぞれ貸与されている。ドイツ在住。

Michiaki Ueno (Cello)

As the winner of the 75th Geneva International Music Competition 2021 and Bonn's Beethoven Ring Award 2024, Michiaki Ueno has proven to be one of the most promising artists on the classical music scene. Michiaki performs on a 1730 "Feuermann" Stradivarius, on loan from the Sasakawa Music Foundation, using a F. Tourte bow on loan from the Sumino Hiroshi Collection.



Haruma Sato

佐藤 晴真 (チェロ)

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門において日本人として初めて優勝。18年にはルトスワフスキ国際チェロコンクールにおいて第1位および特別賞受賞など多数の受賞歴を誇る。バイエルン放送響はじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。

Haruma Sato (Cello)

In 2019, he became the first Japanese to win the first prize (violoncello) at the ARD International Music Competition Munich, and in 2018, he won the first prize and a special prize at the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with Bavarian Radio Symphony Orchestra and other major orchestras in Japan and abroad, and has received favorable reviews for his recitals and chamber music.



Rei Tsujimoto

辻本 玲 (チェロ)

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞(日本人最高位)。2013年齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2019年CD『オブリヴィオン』をリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。NHK交響楽団首席チェロ奏者。使用楽器はNPO法人イエロー・エンジェルより1730年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを、弓は住野泰士コレクションよりTourteを、特別に貸与されている。

公式サイト <http://www.rei-tsujiimoto.com>

Rei Tsujimoto (Cello)

Rei Tsujimoto, principal cellist of the NHK Symphony Orchestra, is a premier prix graduate of Tokyo University of the Arts. He continued his studies at the Sibelius Academy in Finland and Hochschule der Künste Bern in Switzerland. He was awarded second place as well as the Audience Award at the 72nd Music Competition of Japan. In 2007. In 2009, he was granted third place at The Gaspar Cassado International Violoncello Competition.



Kie Ishii

石井 希衣 (フルート)

2022年、第10回神戸国際フルートコンクールにて第3位を受賞。第88回日本音楽コンクール第2位、第19回日本フルートコンヴェンションコンクール第1位、吉田雅夫賞受賞。第25回日本木管コンクール入選など数々のコンクールでの優勝や入賞の実績を持つ。ソリストとして山田和樹氏、角田鋼亮氏の指揮にてモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、横浜シンフォニエッタなど数多くのオーケストラと共演を重ねる。またオーケストラでの客演も多数。2021年・2022年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

Kie Ishii (Flute)

In 2022, she won third prize at the 10th Kobe International Flute Competition. She has also received second prize at the 88th Japan Music Competition, first prize at the 19th Japan Flute Convention Competition, the Masao Yoshida Award, and other top prizes at major competitions. As a soloist, she has appeared with the Monte-Carlo Philharmonic Orchestra, the Tokyo Philharmonic Orchestra, the Yokohama Sinfonietta, and other ensembles under conductors Kazuki Yamada and Kosuke Tsunoda, and has also performed frequently as an orchestral guest artist. She was a scholarship recipient of the Rohm Music Foundation in 2021 and 2022.



Minsoo Sohn

ソン・ミンス (ピアノ)

音楽的知性と鮮やかな技巧で知られる韓国系アメリカ人ピアニストであり、その才能は米国、カナダ、韓国で絶賛されている。特にバッハとベートーヴェン作品の解釈によって、このレパートリーにおける第一人者とされており、多数の賞を受賞している。2020年秋、ソニークラシカルより9枚組の『ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全曲』をリリース。2023年秋、ニューイングランド音楽院ピアノ教授陣に加わった。

Minsoo Sohn (Piano)

Sohn is a Korean-American pianist known for his musical intelligence and masterful virtuosity — qualities that have earned him acclaim throughout the United States, Canada and Korea. His readings of the works of Bach and Beethoven in particular have placed him among the elect in this repertoire, and the inspired ingenuity of his performances of orchestral repertoire have earned him many accolades. The Sony Classical released the highly anticipated nine-album set of "Complete Beethoven Piano Sonatas" in the Fall of 2020. In fall 2023, Sohn joined the piano faculty at New England Conservatory.



Kosuke Akimoto

秋元 孝介 (ピアノ)

東京藝術大学、同大学院修士課程を経て、博士後期課程を修了し博士号を取得。第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール、第16回リヨン国際室内楽コンクールなどで入賞。国内外のコンサートや音楽祭に出演し、ソロと室内楽の両面で数多くの演奏活動を行なっている。またテレビ・ラジオへの出演のほか、多くのCD録音を行い、音楽雑誌等で高く評価されている。サントリーホール室内楽アカデミー、ミュンヘン音楽・演劇大学大学院でも研鑽を積んだ。

Kosuke Akimoto (Piano)

Kosuke Akimoto was born in 1993 at Hyogo, Japan. He won the 2nd prize at the International Rosario Marciano Piano Competition in 2010, the Special prize at the International Paderewski Piano Competition in 2016. And he won the 1st prize at the ARD International Music Competition Munich in 2018 as the Aoi Trio. Akimoto has released the CD which is including "Rite of Spring" performing with his teacher Hiroshi Arimori and it got numerous acclaims in the record magazine. His activity includes solo recital, chamber music, performance with orchestra and community program in many cities. He got the bachelor and master degree at the Tokyo University of the Arts and is currently studying at the University of Music and Performing Arts Munich.



Tomoki Kitamura

北村 朋幹 (ピアノ)

東京音楽コンクール第1位・審査員大賞、浜松、シドニー、リーズ、ボン(ベートーヴェン)などの国際コンクールで入賞。第75回芸術選奨音楽部門文部科学大臣新人賞、第76回文化庁芸術祭賞レコード部門優秀賞、第22回佐治敏三賞受賞。録音は、フォンテックより6タイトルをリリースし、2026年3月には武満徹《アステリズム》等を収録した新譜を発売予定。ベルリン在住。

Tomoki Kitamura (Piano)

Tokyo Music Competition started his career when he was 14, which was followed by prizes at international piano competitions including Hamamatsu, Sydney, Leeds, and Beethoven (Bonn). He received the Keizo Saji Prize, the most authoritative music prize of this genre. He received the 75th Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technologies' Art Encouragement Prize for New Artists (Category of Music, for the Japanese fiscal year 2024). Currently, he is based in Berlin.



Tomoki Sakata

阪田 知樹 (ピアノ)

2016年フランス・リスト国際ピアノコンクール第1位、2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位ほか多数受賞。チェコ国立交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団、NHK交響楽団との共演や世界各地でリサイタル等を重ね、国際音楽祭への出演も多い。

Tomoki Sakata (Piano)

Tomoki Sakata has won numerous awards including first prize in the Franz Liszt International Piano Competition in 2016 and fourth prize in the Queen Elisabeth Competition in 2021. He has performed with such renowned orchestras as the Czech National Symphony, Hungarian National Philharmonic, Belgian National Orchestra, and NHK Symphony. Sakata has also given recitals and other performances around the world and has appeared in many international music festivals.



Kenji Miura

三浦 謙司 (ピアノ)

1993年神戸生まれ。アルゲリッチが審査員長を務めたロン＝ティボー国際コンクールにて優勝及び3つの特別賞を獲得。ベルリン芸術大学を経てハンス・アイスラー音楽大学で学ぶ。ワーナークラシックス・ジャパンより2022年にアルバム『アイデンティティ』、2026年に『Heimat／故郷』をリリース。

Kenji Miura (Piano)

Born in Kobe, Japan in 1993. As the winner of the Grand Prix and three further Special Prizes and Argerich Arts Foundation Prize at the legendary Long-Thibaud Competition 2019 where Martha Argerich served as President of the jury. In 2011 University of Arts in Berlin accepted him as a student, whereupon he decided to continue his studies under the guidance of Klaus Hellwig in Berlin. Warner Classics Japan released the first album "Identity" in 2022, and the second album "Heimat" in 2026.



Aoi Trio

葵トリオ

秋元 孝介 (ピアノ) / 小川 響子 (ヴァイオリン) / 伊東 裕 (チェロ)

第67回ミュンヘン国際コンクール優勝。日本、欧州、アメリカ、アジアでのリサイタルに加え、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、アンサンブル金沢、大阪フィルハーモニー交響楽団とも協演。9枚のCDをリリース。室内楽マスタークラスでの講師も務める。

Aoi Trio Kosuke Akimoto (Piano) / Kyoko Ogawa (Violin) / Yu Ito (Cello)

Aoi Trio won first prize in the 67th ARD International Music Competition Munich. Their performances of rarely presented works and music by Japanese composers have attracted a great deal of attention. The trio has appeared in recitals in Japan and Europe, and has also performed with orchestras. Aoi Trio has released nine recordings to date.



Regulus Quartet

レグルス・クアルテット

吉江 美桜 (ヴァイオリン) / 東條 太河 (ヴァイオリン) / 山本周 (ヴィオラ) / 矢部 優典 (チェロ)

2020年結成。桐朋学園大学、東京藝術大学の出身者で構成される。第43回霧島国際音楽祭賞、堤剛音楽監督賞を受賞。原田幸一郎、池田菊衛、磯村和英、毛利伯郎、堤剛、練木繁夫、花田和加子、原田禎夫、山崎伸子、ウェールズ弦楽四重奏団の各氏に指導を受ける。

Regulus Quartet Mio Yoshie (Violin) / Taiga Tojo (Violin) / Shu Yamamoto (Viola) / Yusuke Yabe (Cello)

Formed in 2020. Members are graduates of Toho Gakuen School of Music and Tokyo University of the Arts. They received the 43rd Kirishima International Music Festival Award and the Tsutsumi Tsuyoshi Music Director Award. They have studied under Koichiro Harada, Kikuei Ikeda, Kazuhide Isomura, Hakuro Mouri, Tsuyoshi Tsutsumi, Shigeo Neriki, Wakako Hanada, Sadao Harada, Nobuko Yamazaki, and Verus String Quartet.



国際音楽祭 NIPPON 2026 芸術監督：諏訪内晶子

【横浜開催】Yokohama

サッシャ・ゲッツェル指揮 国際音楽祭NIPPONフェスティバル・オーケストラ 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

International Music Festival NIPPON Festival Orchestra

2月11日(水・祝) 17:00 横浜みなとみらいホール 大ホール

February 11 Wed. 17:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays MODERN with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays MODERN with Friends

2月26日(木) 19:00 横浜みなとみらいホール 小ホール

February 26 Thu. 19:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Small Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays CLASSIC with Friends

2月28日(土) 14:00 横浜みなとみらいホール 大ホール

February 28 Sat. 14:00 Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

フォーレ室内楽全曲マラソンコンサート

Fauré Complete Chamber Music Marathon Concert

3月1日(日) 横浜みなとみらいホール 大ホール

【第1部】11:00開演 【第2部】14:00開演 【第3部】16:00開演 【第4部】19:00開演

March 1 Sun. Yokohama Minato Mirai Hall, Main Hall

[Part 1] 11:00 [Part 2] 14:00 [Part 3] 16:00 [Part 4] 19:00

公開マスタークラス(ヴァイオリン部門)〈チェロ部門〉

Public Master Class (Violin/Cello)

3月2日(月) 横浜みなとみらいホール

March 2 Mon. Yokohama Minato Mirai Hall

3月3日(火) 横浜みなとみらいホール

March 3 Tue. Yokohama Minato Mirai Hall

【愛知開催】Aichi

サッシャ・ゲッツェル指揮 国際音楽祭NIPPONフェスティバル・オーケストラ 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

International Music Festival NIPPON Festival Orchestra

2月10日(火) 19:00 東海市芸術劇場 大ホール

February 10 Tue. 19:00 Tokai City Arts Theatre, Main Hall

室内楽プロジェクト Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends ~中欧の旅

Chamber Music Project: Akiko Plays CLASSIC & MODERN with Friends

2月25日(水) 19:00 東海市芸術劇場 大ホール

February 25 Wed. 19:00 Tokai City Arts Theatre, Main Hall

ミュージアム・コンサート

Museum Concert

2月23日(月・祝) 19:00 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー

February 23 Mon. 19:00 Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology, Entrance Lobby

【岩手開催】Iwate

諏訪内晶子&フレンズ in 久慈

Akiko Suwanai & Friends in Kuji

2月21日(土) 14:00 久慈市文化会館(アンバーホール) 大ホール

February 21 Sat. 14:00 Kuji City Cultural Center "Amber Hall", Main Hall

【宮城開催】Miyagi

諏訪内晶子&フレンズ in 石巻

Akiko Suwanai & Friends in Ishinomaki

2月22日(日) 14:00 マルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設) 大ホール

February 22 Sun. 14:00 Maruhon Makiart Terrace (Ishinomaki City Cultural Complex), Main Hall



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON



主催：ジャパン・アーツ／日本経済新聞社／東海市・東海市教育委員会(東海市公演)／久慈市教育委員会(久慈市公演)／

石巻市／石巻市教育委員会／いしのまき・みらいクリエイション(石巻公演)

共催：[横浜] 横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団) [愛知] 中日新聞社／CBCテレビ

[岩手] 岩手日報社／岩手朝日テレビ [宮城] 河北新報社／tbc東北放送

後援：ドイツ連邦共和国大使館／オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム東京／駐日韓国大使館 韓国文化院

特別協賛： 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力：トヨタ産業技術記念館(名古屋公演)／神奈川芸術協会(横浜公演)／ユニバーサル ミュージック

企画制作：ジャパン・アーツ

プログラム監修：沼野雄司 舩木篤也

マネジメント：ジャパン・アーツ／クラシック名古屋(名古屋公演)



22世紀を

移動の真ん中に

AISIN

動かそう

www.aisin.com/jp 株式会社 アイシン

トヨタ自動車株式会社



モビリティを通じて、もっと住みやすい社会に。

全ての人が、楽しく自由に移動できる世界を、想像してみませんか。

もうすぐそこに、そんな社会が近づいて来ている。

私たちは、誰もがそれぞれの可能性にチャレンジできる社会づくりを目指しています。

TOYOTA



心をひろく。
未来をえがく。

未来の子供たちにより良い地球を届ける



紡ぎ続ける私たちの想い
豊かな未来を織りなす

モノづくりを通して社会の役に立つ

繊維機械を原点に、自動車、産業車両・物流ソリューションを両輪に
創業の想いを紡ぎ続け、もうすぐ100年

豊かで持続可能な未来をめざし、私たちは挑戦を続けます



豊田自動織機

<https://www.toyota-shokki.co.jp>

